

かお・人・interview

2019年5月7日

校長

インタビュー



学校法人 嶋田学園
福岡国土建設専門学校 校長

三角雅則氏

masanori MISUMI

生活インフラの安心・安全を担うのが測量技術だ。公共土木事業のすべてに関わり、測量がなければ予算も計画も成り立たない、スタート業務。福岡国土建設専門学校は、その技術者を育成する。ここでは、基礎から最先端の技術を学べ即戦力になれる能力が身に付く。卒業と同時に国家資格を取得できるため、就職率も高い。技術者不足に直面する建設業界。担い手確保や育成のために、今後取り組むべき測量の将来性や課題について三角校長に話を伺う。

Q 31年度の抱負

福岡国土建設専門学校の副校長1年、校長になって3年目を迎えました。過去にいくつかの県立高校の管理職を経験しています。教諭の時代を含めて、長年高校生ばかりを見てきた私にとって、その上の年代(18～50歳)はとても新鮮に映りました。入学時からすでに測量士補の資格をもっている方もいますが、大半の学生は未経験です。私自身、週に3回程度教壇に立っています。測量業界の将来を担う学生たちには、生活上のあらゆるところに測量が関連している、と伝えていきたいと考えています。



▲校舎正面

学生には夢を広げ、新しい世界へ自信をもって飛び立ってほしい。そのためには、学びの場を積極的に提供し、カリキュラムや指導体制を充実させることが大事です。当校に興味を持った、入学したというのは測量の適性があるということです。



▲実践授業

学生の個性を活かし学力を育てるために学校が後押しできることは、授業の質の高さ以外にありません。座学と実習(実践授業)を基礎から学ばせ、卒業時には国家資格である「測量士・測量士補」を取得できる、建設業界の担い手不足を補える人材を育成する、そのことを第一に考えています。

Q 福岡国土建設専門学校の特徴

特徴は、卒業と同時に測量士補の国家資格が取れることです。また、卒業後、実務経験2年以上あれば、国家試験免除で測量士の資格を取得できます。ありがたいことに就職率も14年連続100%を

土木建設のすべては 測量技術が支えている



▲写真提供：福岡市



▲道路測量中の生徒

誇っています。求人は学生ひとりに対して10社以上あり、ほとんどの学生が希望する職種へ就職が決まります。卒業時には国土地理院九州測量部長から登録証を授与されますので、貴重な経験になると思います。

春夏に行われるオープンキャンパスのミニツアーも特徴のひとつかもしれません。福岡市内を走るオープントップバスを貸し切り、荒津大橋、福岡ドーム、福岡タワー、大濠公園などを合わせて走ります。学生や保護者、引率の先生と一緒に、周辺景色を見ながら測量設計が担っているものを体感してもらいます。

また、那珂川河畔公園で8月下旬から11月初旬まで約3か月の測量実習も好評です。測量技術情報科は留学生も入学します。国籍は違えど、同じ技術を学ぶ仲間です。各チームが一丸となり、基準点測量や地形測量など、学内で学んだ知識を郊外学習でアウトプットさせ、それぞれの技術レベルを再確認していきます。チーム内の意見交換もレベルアップには重要です。測量は担当者とのやり取りなどコミュニケー

安心・安全を考え、
それがすべて人の役に立つ、
それを実感できる仕事です。

ション能力を問われる現場も多いのです。課外活動を通してチームワークなど社会人としての素養を同時に身に付けることができます。

Q 学校の紹介(業務内容)

昭和48年4月、建設大臣指定許可福岡国土建設専門学校(測量士養成校)として福岡市博多区三筑に開校しました。卒業生は約5,800名を超え、創立47年目の伝統と歴史ある専門学校です。現在、国土交通大臣登録校である本校の主な学科は、測量技術科(1年)、測量技術情報科(2年)、都市環境設計科(技術系公務員コース・施工技術者コース)(2年)です。3学科とも卒業と同時に「測量士補」、実務経験2年以上で「測量士」を取得できます。ほかに留学生対象の国際情報ビジネス科と日本語学科があります。

Q 校長として意識していることと地域交流

建設業界の担い手育成に努めるのは当然ですが、測量や地図に対する理解の促進にも力を入れたいと考えています。測量は生活のすべてに関係しているにもかかわらず認知度が低い。「測量=建設=体力」といわれ、女性には敬遠されているかもしれません。ですが、測量の技術職は出産・育児と並行して仕事が可能で職場です。

今後は広報の場を女性が多い学校などにも広げていきたいと考えています。

近年参加している「測量の日」のイベントや出前授業は今後も続けていきたいと考え



ています。それは、年に一度行われる、(一社)福岡市設計測量業協会主催の「測量の日」記念行事「あそこまでなんぼ」です。測量の専門学校ですので、優勝するのも広報活動のひとつです。学生には出るからには優勝は必須と伝えています。

また、10年前から三筑小学校の6年生と測量を通じて交流しています。この取り組みを始めたのは、地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進していた、現理事長の嶋田吉勝です。

測量に関係する三角比を6年生は10月後半に学びます。その後、専門学校の学生が測量機器を持参し来校します。校舎の高さを測るなど、生活と測量が密接な関係だと体感してもらいます。小学生自身が測量機器から世界を見ることで、建設や土木への意識を高めてもらえていると思います。この授業がきっかけで、将来は測量士になる小学生もいるかもしれません。

今では、測量以外に国際交流も加わりました。小学校は英語、留学生は日本語の語学レベルを確認し合うような交流もスタートしました。これも、地域から信頼される学校づくりを46年間行った結果です。今後も10年、20年と受け継いで行きたいと思います。

Q 技術者になる留学生

日本語学科には、ネパール、ベトナムなどから来た留学生が140名ほどいます。卒業時には、幅広い場面で使われる日本語は理解できるレベル(N2～N3)で卒業します。そこで帰国する学生もいますが、ほとんどが日本で就職したいと考えています。ですが、外国人が日本に長期滞在するためにはビザ取得が大きな壁です。

だからこそ、留学生には測量技術情報科の入学を進めています。数学や面接試験も行いますので、誰もが入れるコースではありませんが、測量士補の国家資格を取得できれば就職率は格段にアップします。そうなれば、ビザ問題は大きな壁になりにくい。どの現場でも優秀な技術者は求められていますので、今後も戦力として期待される人材だと思います。



最新技術を身につけて
自信をもって卒業する

Q 地域建設業への期待

建設業界は深刻な人材不足が懸念されています。優れた技術者を獲得したいならば、育成に力を入れる必要があります。そのためには、適性を見極めて育てる必要があるでしょう。

本校は現場で求められる測量のスペシャリストの育成に力を注いでいます。ただ、残念ながら、生徒数には限りがあり、すべての募集企業に応えることができないのが現状です。

だからこそ、専門実践教育訓練など多様な給付金制度を利用して、社員のキャリア形成を支援させていただきたいと考えています。本校は、訓練校にも選ばれていますので、その制度を利用すると学費の負担は大幅に軽減されます。また、技術を取得した社員が国家資格をもって会社へ戻ることは、活躍の場を広げ現場への貢献度も期待できます。

Q 趣味や健康法について

測量に現地踏査があります。これは、現地に足を運び状況を把握する調査です。その踏査の感覚を知るために、日常から歩くことを意識しています。自宅から近い春日公園を周辺の地形を観察しながら3周程度歩くのを楽しんでいます。

他には歩くことが基本となるゴルフに親しんでいます。普段は教える立場ですが、「教えられる側」になることで、新たな発見があるかと思い、レッスンを受けています。スコアは大きく変わりませんが、取り組み方法など新鮮で驚きがあります。

プロフィール



出身地：福岡県八女市
生年月日：昭和29年7月2日(64歳)
S54年～県立学校工業科教諭として
浮羽・香椎・福岡工業高校に勤務
H24年 県立水産高校長
H26年 県立筑紫高校長
H28年 福岡国土建設専門学校副校長

H29年 福岡国土建設専門学校長
現在に至る